

## F1-36

## タイ・チェンマイ市におけるシェアサイクルの現状把握と持続可能な交通の実現に向けた提案 Understanding the current situation of bike-sharing service and suggestion policy for realization of sustainable transportation in Chiang Mai City, Thailand.

○御代川岳<sup>1</sup>, 飯沼巧<sup>1</sup>, 杉山海<sup>1</sup>, 鈴木悠介<sup>1</sup>, 土井悠輔<sup>1</sup>, 宮口友谷<sup>1</sup>, 大手駿平<sup>1</sup>, 加藤崇徳<sup>1</sup>, 塚田幸佑<sup>1</sup>  
古川泰地<sup>1</sup>, 三木田龍一<sup>1</sup>, 宮津駿一郎<sup>1</sup>, 吉岡瑞貴<sup>1</sup>, 福田敦<sup>2</sup>, 石坂哲宏<sup>2</sup>, マーライタム・サティター<sup>2</sup>  
\* Takeru Miyokawa<sup>1</sup>, Takumi Iinuma<sup>1</sup>, Kai Sugiyama<sup>1</sup>, Yusuke Suzuki<sup>1</sup>, Yusuke Doi<sup>1</sup>, Tomoya Miyaguchi<sup>1</sup>  
Shunpei Ote<sup>1</sup>, Takanori Kato<sup>1</sup>, Kosuke Tsukada<sup>1</sup>, Taichi Furukawa<sup>1</sup>, Ryuichi Mikita<sup>1</sup>, Shunichiro Miyazu<sup>1</sup>  
Mizuki Yoshioka<sup>1</sup>, Atsushi Fukuda<sup>2</sup>, Tetsuhiro Ishizaka<sup>2</sup>, Sathita Malaitham<sup>2</sup>

Emissions gas from automobiles are considered as a critical problem in Thailand. Thus, the objective of this research is to promote bike-sharing service, which is one of an “Environmentally Sustainable Transportation(EST)”. To achieve the goal, we observed current situation of bike-sharing and conducted questionnaire interview survey in the Old Town of Chiang Mai. From the results, safety, convenience, publicness should be promoted to encourage local residents in Chaing Mai to use bike-sharing service.

### 1. はじめに

タイ・チェンマイ市には、歴史的な史跡が多く存在し、観光が主要な産業となっていることから、チェンマイ市では、環境に配慮したまちづくりを目指しており、その一環としてシェアサイクルを導入している。しかし、現在の主な利用者は観光客であり、一般市民による利用は進んでいない。

そこで、私たちは、環境にやさしい交通を実現するために、一般市民によるシェアサイクルの利用を推進していくことを考え、その実現可能性に関して、チェンマイ大学工学部土木工学科およびコンケン大学工学部土木工学科の学生と協働して調査を実施した。本稿では、調査結果に基づいて行った分析結果を報告する。

### 2. シェアサイクルの現状

チェンマイ市内にあるシェアサイクルは、チェンマイ市が民間で運営を委託して実施しているもので、貸出可能なポートは 16 か所、その他に駐車だけ可能なステーションは 11 か所ある。ポートの管理者に伺ったところ、現在の利用者は中国人の観光客であり、利用者数もあまり多くないとのことで、一般市民の利用はほとんどないとのことであった。

### 3. 調査方法

現地調査は、チェンマイ大学とコンケン大学の学生と協働して、チェンマイ市内在住の一般市民を対象としたアンケート調査を実施した。このアンケート調査では、現在の一般市民の利用交通手段やシェアサイクルに対する考え等を探った。

今回の現地調査の方法は、Table 1 の通りである。

**Table 1. The research methods about the share cycle**

アンケート調査	
日付	2017年9月6～7日
時間	11～16時
場所	旧市街地内およびその周辺
人員	27名
対象	市内在住の一般人
サンプル数	140
質問項目	利用交通手段, シェアサイクルの認知度 シェアサイクルで何を重要視するか



**Figure 1. Bike-sharing stations and observation points**

### 4. 調査結果および解析結果

初めに、一般市民の普段利用する交通手段について質問（単回答）した。その結果は、Figure 2 の通りである。『通勤・通学』目的で利用する人は、バイクが 42.86%

で最も多く、ついで自動車が 32.14%であった。また、『買い物』目的で利用する人は、自動車が 41.43%で最も多く、バイクがついで 35.00%であった。このことより、一般市民の利用交通手段はバイクと自動車が多数を占めるということが分かった。

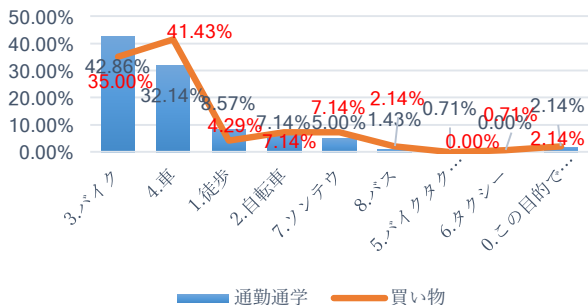


Figure 2. The usual transportation by the local people

次に、シェアサイクルに関して質問した。まずは、シェアサイクルを『知っているか』、『使ったことがあるか』、『利用したいと思うか』の3つを質問した。その結果は、Figure 3の通りである。

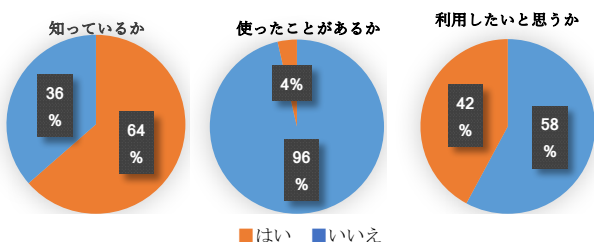


Figure 3. The result of the share cycle's questionnaire

シェアサイクルを『知っている』人は6割を超えているが、『使ったことがある』人はほとんどおらず、また『利用したい』と回答した人は42%であり、5割を下回った。また、アンケートに回答した人の年齢と『利用したいと思うか』をクロス集計したところ、その結果は、Figure 4のようになった。

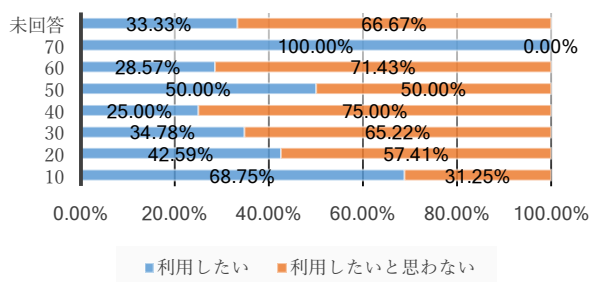


Figure 4. The result of your age and whether you want to use a share cycle

10代では、『利用したい』人が68.75%であり、『利用したいと思わない』人を上回っている。ところが、次第に年齢が上がるにつれて、『利用したい』人を『利用したいと思わない』人が上回るという結果となっている。このことより、10代の方はシェアサイクルに対して、興味・関心を持っているということが分かる。

そこで、シェアサイクルを『利用したいと思わない』人の傾向を探るべく、シェアサイクルを利用する際に、各々の項目を重要視するか否かを質問した。その結果は、Figure 5の通りである。

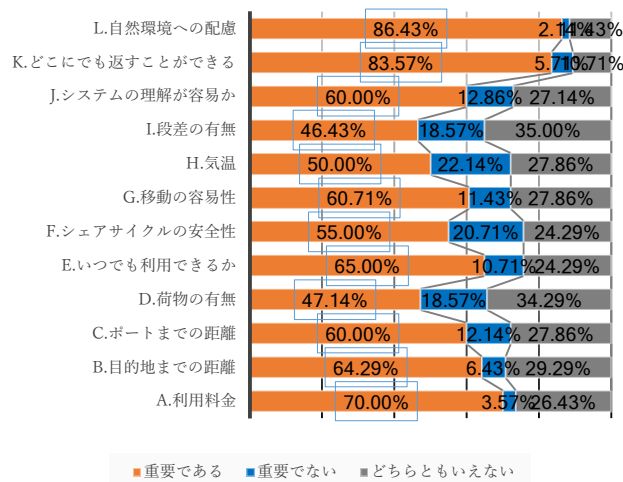


Figure 5. The result of the item about the share cycle

重要であると回答した人が最も多かった項目は、『自然環境への配慮』であり、9割近くにまで及んだ。ついで、『どこにでも返すことができる』は8割以上の人が重要であると回答した。また、『利用料金』や『利用システムの容易性』、『ポートや目的地までの距離』、『安全性』や『移動の容易性』が重要であると回答する人も多かった。

### 5. おわりに

今回実施した現地調査から分かったことは、地元の方は、自然環境や利便性、分かりやすさ、安全性に対して高い意識を持っているということである。そこで、私たちは『利便性』、『分かりやすさ』、『安全性』の3つを軸にシェアサイクルを提案していきたい。シェアサイクルを提案していく上で、環境に対する意識が高かったことは好ましい。しかし、シェアサイクルを使ったことがない、利用したいと思わない人が多いため、3つの軸を中心にどのように一般の人にシェアサイクルを広めていくかが、今後の研究の課題である。